



海から考える与論島の未来

～課題発見とその解決にデザインを活かす～

2021年3月17日(水)19:00～ 砂美地来館

主催：NPO法人ヨロンSC

会次第

1部

海っ子ローカルメディア配信プロジェクト
事業報告

2部

講演

「与論町における海洋教育について考える」

講師：田口康大

3部

トークセッション

「デザインで生み出す「新しい自然」

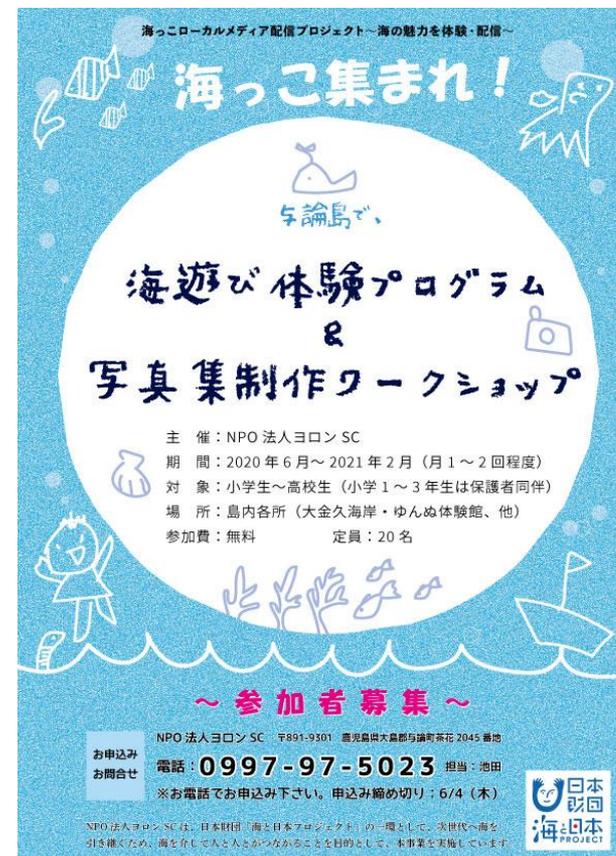
大城健作/佐藤久美子/池田剛

「海っこローカルメディア配信プロジェクト ～海の魅力を体験・配信～」

対象：島内子ども（**26名**参加）

- ①体験プログラム（**全7回**実施）
「海離れ」を防ぐ
「海遊び」を通して魅力を再発見
- ②発信プログラム（**全5回**実施）
海遊びを通してヨロンの魅力を発信

※日本財団「海と日本プロジェクト」
の一環として実施



海っこローカルメディア配信プロジェクト～海の魅力を体験・配信～

海っこ集まれ!

島論島で、

海遊び体験プログラム & 写真集制作ワークショップ

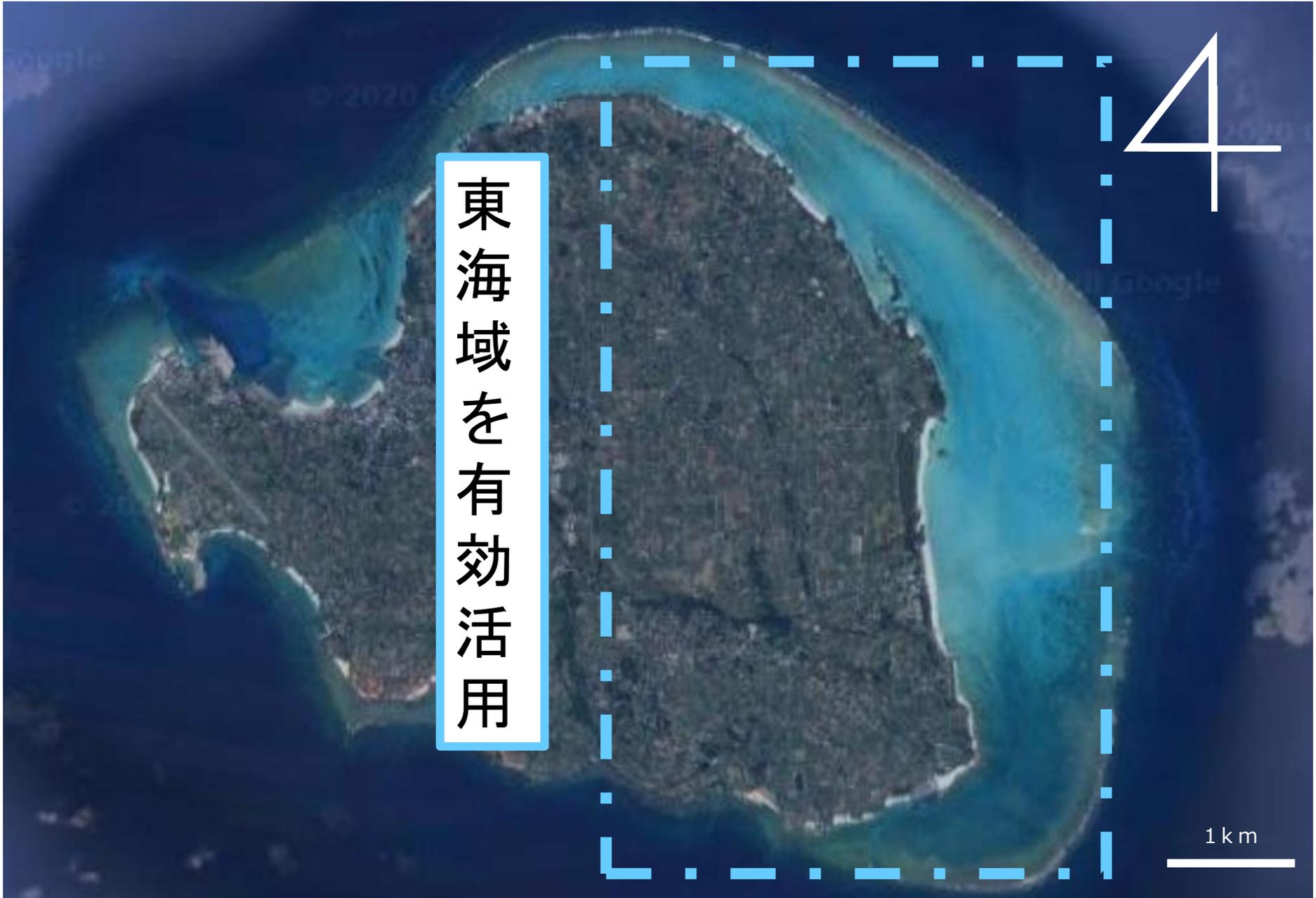
主催：NPO法人ヨロンSC
期間：2020年6月～2021年2月（月1～2回程度）
対象：小学生～高校生（小学1～3年生は保護者同伴）
場所：島内各所（大金久海岸・ゆんぬ体験館、他）
参加費：無料 定員：20名

～参加者募集～

お申込み
お問合せ NPO法人ヨロンSC 〒891-9301 鹿児島県大島郡与論町茶花 2045 番地
電話：0997-97-5023 担当：池田
※お電話でお申込み下さい。申込み締め切り：6/4（木）

NPO法人ヨロンSCは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、次世代へ海を
引き継ぐため、海を介して人と人とつながることを目的として、本事業を実施しています。





東
海
域
を
有
効
活
用

4

1 km



体験プログラム

4

6/14 大金久海岸

赤崎サンゴの森

7/5

1 km

与論島における体験活動実施場所(GoogleMapより)

●海ゴミゼロウィークへ参加 (6/14)



●サンゴ礁体験学習(7/5)



4

● 赤崎トレッキング(8/9)@オンライン



赤崎海岸

8/9

1 km

与論島における体験活動実施場所(GoogleMapより)

磯遊びの服装チェック

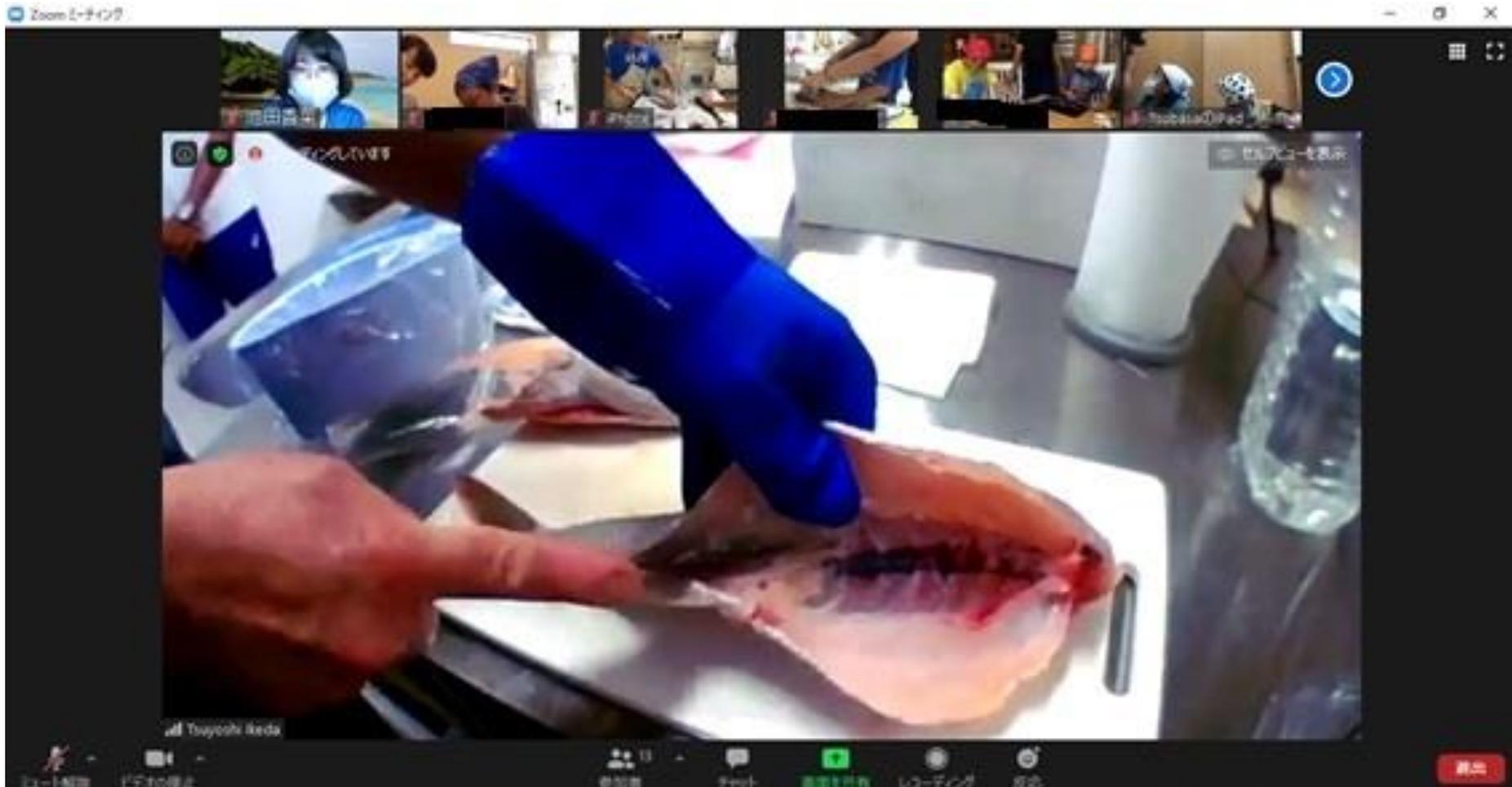
- 水着
- ライフジャケット
- 帽子
- 海ぐつ

- 竹竿
- あみ
- 水中ゴーグル

1部：体験プログラム



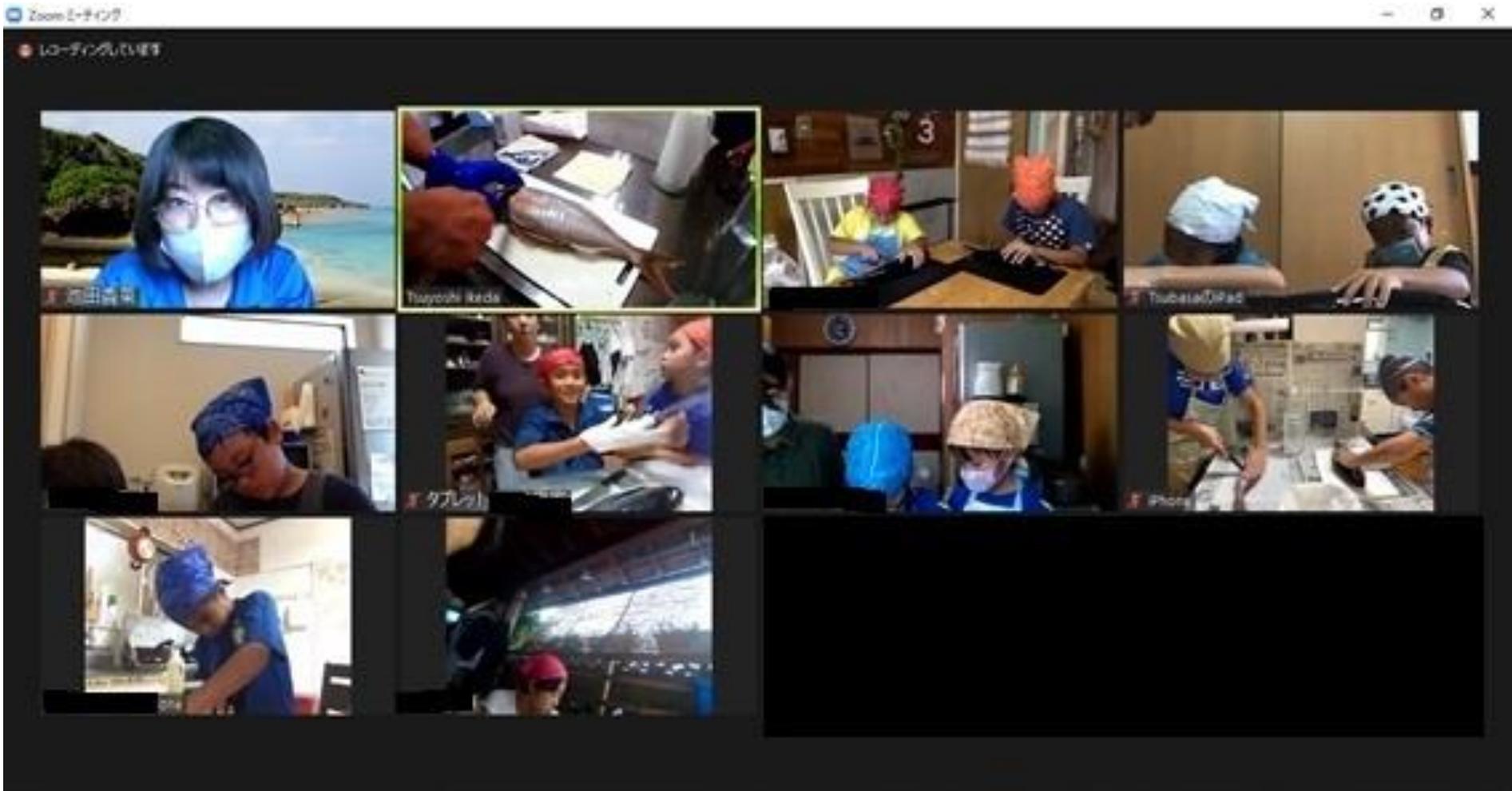
●魚のさばき方教室(8/16)@オンライン



1部：体験プログラム



●魚のさばき方教室(8/16)@オンライン



4

10/3

皆田海岸

1 km

与論島における体験活動実施場所(GoogleMapより)

●SUPカヌーツーリング (10/3)



4

11/14

船倉海岸



1 km

与論島における体験活動実施場所(GoogleMapより)

●旧暦のある暮らし体験 (11/14) @オンライン

サンガツサンガチ

●お供え物を捧げる

00:48:56 / 01:02:46

サンガチサンニチ

●最後に祠へお参り

ニ礼ニ拍ニ礼

00:51:52 / 01:02:46

発信プログラム

3710Lab



基本オンラインで実施

10/11 山野さん(takaiyama)によるワークショップ



1部：発信プログラム

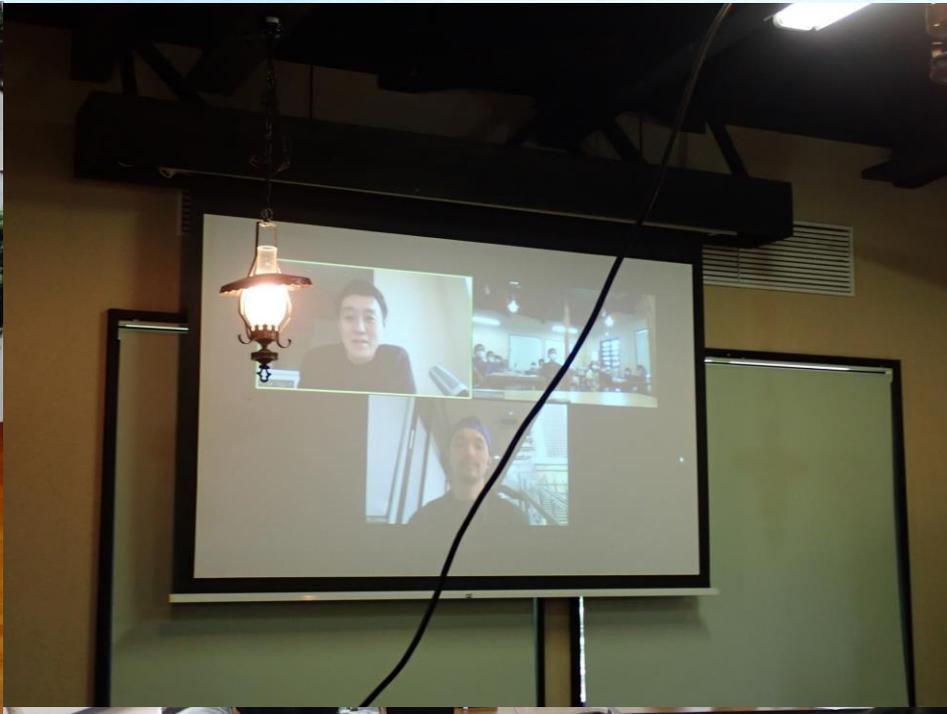


- ・ 伝わるデザイン
- ・ 伝わる文字の大きさ
- ・ 伝わるフォント

伝える



1部：発信プログラム



1部：発信プログラム



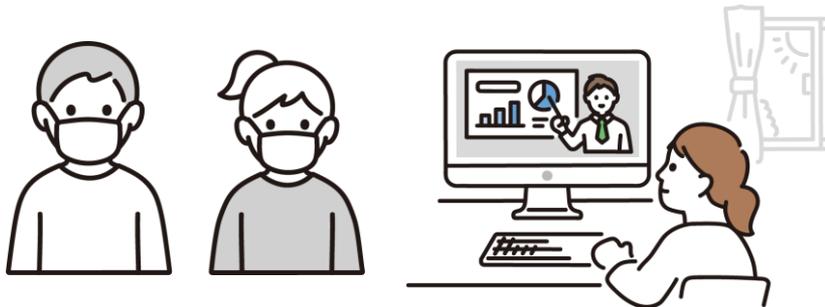
オンラインの可能性



完成了ました

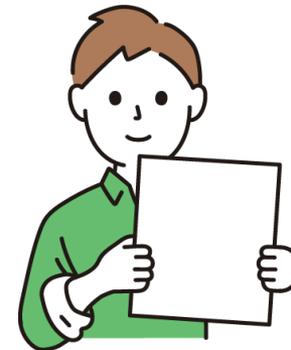
● これからの運営

- ・ コロナ禍でのイベント実施
- ・ オンライン/オフラインを使い分け



● 自分の力で生きる人を育てる

- ・ 体験を通して地域の魅力を知る
- ・ 発信する力を身につける



情報発信を「デザイン」する！

①創造性を社会に活かす

②コミュニティーの掛け算

③自己表現できる場づくり

①創造性を社会に活かす

10/11 山野さん(takaiyama)によるワークショップ



新聞づくりの過程を学び
子どもたちが
島の魅力を再発見する

ヨロンを深掘り！ わらびんちゃー記者



P.04 ひらた りな
平田 千和

テーマ 私の知っているヨロンの浜



P.05 かわばた あいあ
川畑 太伊賀

テーマ ヨロンの海の生物



P.06 のんか つきよ
野村 月乃

テーマ 与論の海の妖怪



P.07 かわばた りょう
川畑 慶将

テーマ ゆりがはまのいろんなところ
(オリジナルゼー)



P.08 かわばた けいた
田畑 誠也

テーマ むかしなからのあそび



P.09 やまだ りょう
山田 慶吾

テーマ 与論の海の妖怪



P.24 たにうち あづ
竹内 安袖

テーマ ハマグリさがし



P.25 やまだ ふゆき
山田 深雪

テーマ むかしなからのあそび



P.26 いけだ あきひろ
池田 明日登

テーマ ヨロンの海の釣れたら
うれしい魚スーパートップ7



P.30 いけだ りょう
池田 悠剛

テーマ 与論の海のきれいな魚ベスト5



P.31 てるはら りょう
勝 華凛

テーマ 与論の海のつり名人



P.28 にしむら しや
重留 悠秀

テーマ ヨロンの海のワイドンダー



P.17 たねだ こころ
田畑 こころ

テーマ 昔ながらの遊び



P.18 しらやま みらい
白山 未来

テーマ ヨロンの海のきげん
生ぶつビュウキングダウ



P.23 しらやま みらい
白尾 奏真

テーマ ヨロンの海のきれいな魚



P.27 しむら ゆき
重留 悠吾

テーマ 与論の海の「未来予想」



P.19 かわばた みく
川上 紗寿

テーマ 与論の海のつり名人



P.17 しらやま かい
白山 海音

テーマ ヨロンの伝とう・イベント

YORON JOURNAL WORKSHOP FLOW

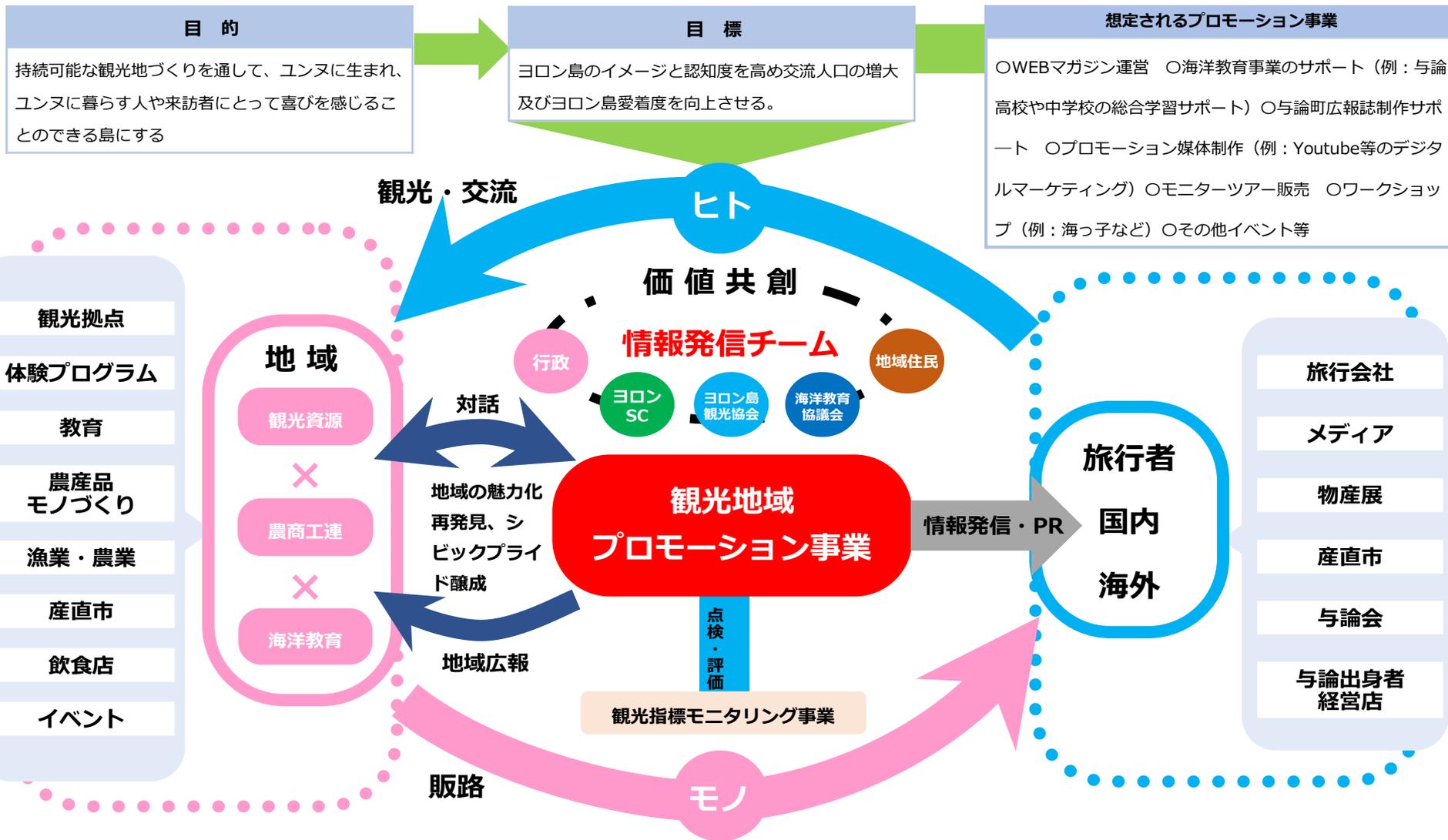
本誌発刊の子どもたちが6名と制作した「ヨロンジャーナル」オンラインを食と島のワークショップを行い、3-5歳のテーマでさまざまな角度から新聞作りを学びました。「自分の好きな場所」を想像し「誰かに伝える」ことを意識することで、子どもはヨロンの魅力もより深く体感することができました。

- 1 自己紹介・写真を撮影あがる
- 2 考えよう：自分と海のつながり
- 3 調べよう：ヨロンと海のつながり
- 4 話し合おう：ヨロンと海のつながり
- 5 書いてみよう：ヨロンの好きなところ
- 6 やってみよう：調べたことを表現する
- 7 読めよう：どうすれば伝わる?

「新聞記者をやってみよう」と、「ヨロンジャーナル」の制作に手を上げてくれた年輪のわらびんちゃー。やる気十分の新聞記者たちによる特集では、彼ら、彼女らによる「ヨロンのいいところ」を徹底的に取材しました。家族からの許可も得て、自分が置かれる大人に取材したインタビュー、自分の目で調べた年輪の情報を集めて記事にしました。これで、お読みください。特別になっていきます！

② コミュニティーの掛け算

情報発信イメージ図



③自己表現できる場づくり

講演

与論町における海洋教育について考える



A scenic view of a beach with turquoise water and a rocky foreground. The sky is blue with some clouds. The text is overlaid on the top half of the image.

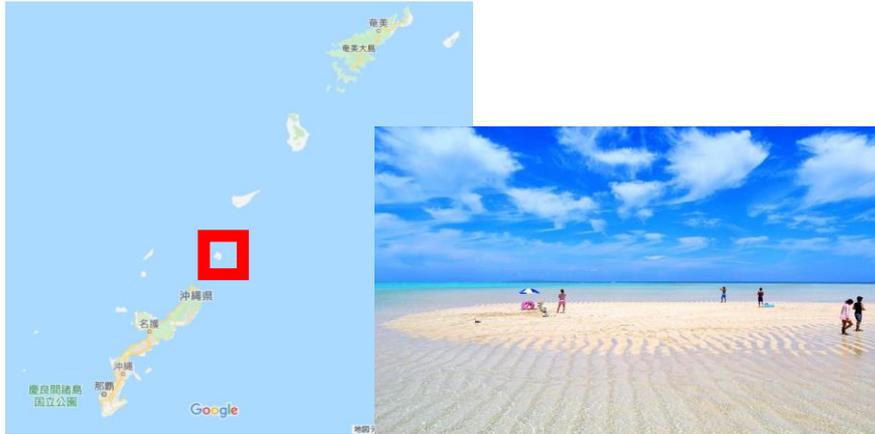
トークセッション

「デザインで生み出す『新しい自然』」

2021年3月17日シンポジウム資料

渚の交番プロジェクト

鹿児島県・与論渚の交番



担い手	(特非) ヨロンSC
活動実績	子供向けマリンアクティビティ事業の実施、体育館・プール等スポーツ施設の指定管理。過去に同町より多数の文化・スポーツにかかる業務委託の受託実績と、海を活用した健康増進政策の企画立案の実績を持つ。
場所	鹿児島県大島郡与論町大金久海岸
整備費申請額	197,770,000円

解決したい課題

珊瑚礁の豊かな海に囲まれた与論島だが、島の子供たちが海に行く機会が少ない。また、観光客の増加に伴う環境への負担や施設の老朽化などの問題も起きている。本事業は上記の課題解決のために海洋教育プログラムの実施や持続可能な観光地づくりのハブとなる拠点を設置する。

事業内容

1. 島内の小学校～高校と連携した体験型海洋教育プログラムの実施、島外観光客に対する海洋体験プログラムの実施
2. NPOや自治体、マリン事業者等と連携した環境整備
3. (持続的な運営) プログラム参加料、カフェ等の運営、観光協会と連携した観光事業者取りまとめや情報発信の実施

2021年3月17日シンポジウム資料

ヨロン 渚の交番

体験型海洋教育・地域のコミュニティとしての拠点

1. 実践型海洋教育



与論町の小学校～高校と連携し、体験型の海洋教育プログラムを実施

2. 環境整備



NPOや環境団体と連携し、地域の海を次世代につなぐ

3. 情報発信



全体のマネジメントや観光客のワンストップ窓口機能、海や観光に関する情報発信の拠点を目指します。

4. 交流の拠点



親子向け魚のさばき方教室や島の魚を食べる！週間等を実施し、地域コミュニティの拠点となる

与論町役場による環境整備

既存建物の撤去、駐車場の整備と拡大、その他周辺環境の整備を自治体が担う



既存周辺施設との連携

キャンプ場など観光資源を活かした東海岸全体の魅力化

「海」を起点とした多様な関係者が集まる拠点

Muuru(ムール)

